ソーバル株式会社から株式会社アートファイネックスへの RFID 事業譲渡のお知らせ

株式会社アートファイネックス（本社：福井県鯖江市代表取締役社長：中村隆治、以下アートファイネックス）と、ソーバル株式会社（本社：東京都品川区代表取締役社長：推津順一証券コード:2186、以下ソーバル）は、平成 27 年 3 月 31 日付けで、ソーバルの RFID 事業をアートファイネックスに譲渡することを決定し、両社の間で事業譲渡契約を締結しましたので、お知らせいたします。

１．事業譲渡の理由ソーバルの RFID 事業は、平成 17 年 2 月より開始した RFID 製品の研究、開発、製造、販売を行う事業です。ソーバルは数多くの RFID 製品を発表し、業界内で確固たる位置を築き上げましたが、引き続きソーバルが RFID 事業を進めても大きな躍進は難しいと判断し、同事業をアートファイネックスに譲渡することを決定いたしました。

２．事業譲渡の概要
(1)RFID 事業の内容 RFID 製品の研究・開発・製造・販売
(2)譲渡日平成 27 年 3 月 31 日
(3)事業譲渡先の概要名称：株式会社アートファイネックス所在地：福井県鯖江市上河端町第 6 号 1 番地 33
代表者の役職・氏名：代表取締役社長中村隆治
事業内容：RFID 製品の開発・販売およびコンピュータシステムの開発資本金：50 百万円
設立年月日：平成 23 年 11 月 1 日

３．譲渡後の営業・サポート体制事業譲渡した RFID 製品の開発、販売および製品サポートは、ソーバルとアートファイネックスが協力して行います。

■お問い合わせ先
ソーバル株式会社担当：RFID サポート Email:rfid@sobal.co.jp
Web サイト:https://wwws.sobal.co.jp/form/index.cgi?menu=form-support

株式会社アートファイネックス
担当：中村 TEL:0778-54-8085
Email:rnaka@art-tec.co.jp

キーボードシミュレートツール

RFID2KBD 取扱説明書

文書番号	RC12027-001
版数	Rev 1.4.0
最終更新日付	2013/09/17
発行元	ソーバル株式会社

変更履歴

日付	版数	変更内容
2012/07/13	Rev 1.0.0	・初版発行
2013/07/03	Rev 1.3.3	・「1.2.対応機器一覧」 機器一覧を更新 ・「3.2.1.[Settings]画面の表示」 時刻を挿入する機能を追加 アンテナ切替器のアンテナ番号を指定する機能を追加 アンテナ番号を挿入する機能を追加 ・「3.3.UHF 帯タグを検出し、ID をシミュレートする」 異なるアンテナで同じ ID が検出された場合の記述を追加 ・「3.5.終了」 章タイトルを変更
2013/09/17	Rev 1.4.0	・「3.2.1.[Settings]画面の表示 1W モデルの制限を追加

はじめに

このたびは、UHF 帯 RFID リーダ・ライタ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

本ドキュメントは、RFID2KBD の使用方法を説明したものです。安全に正しくご使用いただくため、ご利用前に必ずお読みください。

□ご注意

- RFID2KBD の著作権は、ソーバル株式会社に帰属します。
- RFID2KBD の使用により生じた損害に対し、ソーバル株式会社は一切責任を負わないものとします。
- 本ドキュメントは、RFID2KBD のバージョン 1.04 以降を対象としています。

無断転載を禁じます。
本書の内容は、予告無く変更することがあります。
記載しているスクリーンショットなどは、イメージを説明したものです。
実際の画面と相違している場合があります。

※Windows は、米国 Microsoft Corp.の登録商標です。
※その他、商品名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。

目次

1. 概要 1
1.1. ソフトウエアの概要 1
1.2. 対応機器一覧 1
2. RFID2KBD のインストール 2
3. RFID2KBD の使用方法 6
3.1. 起動 6
3.2. 設定を変更する 7
3.2.1. [Settings]画面の表示 7
3.2.2. [Settings]画面の操作 8
3.3. UHF 帯タグを検出し、ID をシミュレートする 9
3.4. バージョン情報を確認する 10
3.4.1. [About]画面の表示 10
3.5. 終了 10
4. その他仕様 11
4.1. 自動開始モード 11

1. 概要

RFID2KBD(以下、本ソフト)は、当社製品であるUHF帯リーダ・ライタ(以下、リーダ・ライタ)を使用し、検出したUHF帯タグのIDをキーボードイベントとしてシミュレートさせるソフトウエアです。

1.1. ソフトウエアの概要

■ 動作環境

- OS ： Windows® XP SP3 以降、Windows® Vista SP2 以降、Windows® 7 SP1 以降、Windows® 8
- 必要なファイル等 ：RFID2KBD.exe、spapi.dll、.NET Framework 2.0 以降

1.2. 対応機器一覧

以下に、本ソフトが対応する機器一覧を示します。

機器名	ファミリ名	モデル	タイプ	機器区分
UPS-32-J2、UP4-32-J2、UP8-32-J2	CB ファミリ	SP モデル	32mW	特定小電力
UP-100-J2 UPS-100-J2、UP4-100-J2、UP8-100-J2			100mW	
UP-200-J2 UPS-200-J2、UP4-200-J2、UP8-200-J2			200mW	
UPS-1000-J2、UP4-1000-J2、UP8-1000-J2		SU モデル	1W	構内無線局
URW-SP3	f ファミリ	SP モデル	32mW	特定小電力
URW-SP4、UP-100f-J2、UC-100f-J2			100mW	
PRM92J20CE-S、UP-200f-J2			200mW	

※一覧に無い機器の対応状況につきましては、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

2. RFID2KBD のインストール

CD-ROM 内の[RFID2KBD]フォルダにあるインストーラファイル(.msi)を実行してください。

※.NET Framework 2.0 以降がイントールされていない場合は、インストールを要求する画面が表示されますので、画面に従い「.NET Framework 2.0 再頒布可能パッケージ」をインストール後、再度インストーラファイルを実行してください。

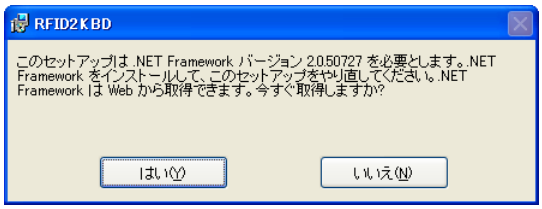

図 2-1

以下の画面が表示されますので、[次へ]を押下してください。

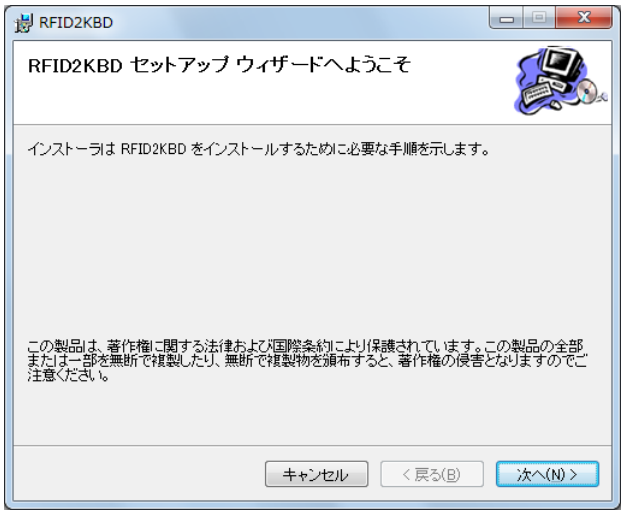

図 2-2

使用許諾契約書が表示されますので、内容に同意される場合は、[同意する]を選択し、[次へ]を押下してください。

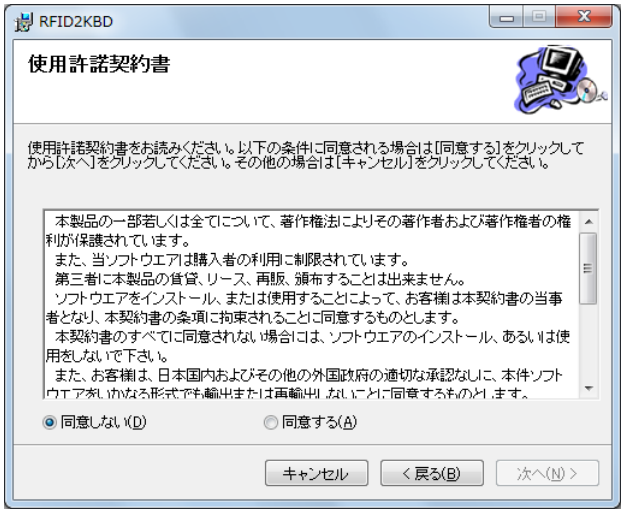

図 2-3

インストール先に変更がなければ、そのまま[次へ]を押下してください。

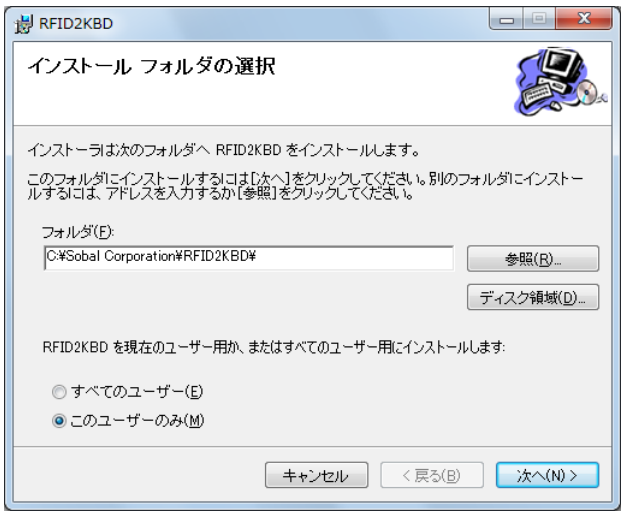

図 2-4

デスクトップにショートカットを作成する場合は、[デスクトップにショートカットを作成する]にチェックを入れ、[次へ]を押下してください。

図 2-5

[次へ]を押下すると、インストールが開始されます。

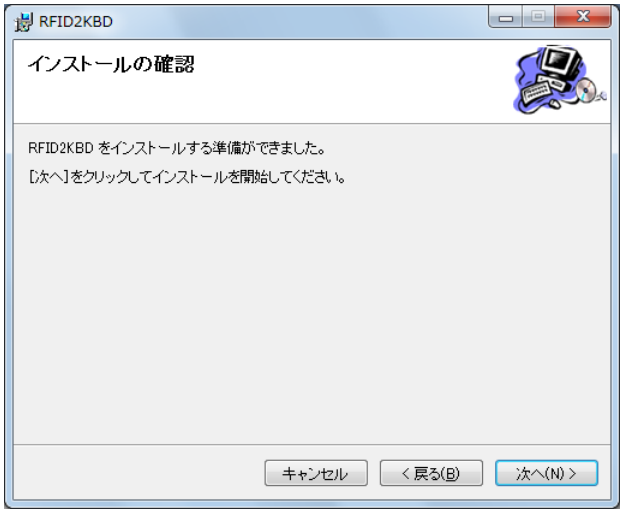

図 2-6

以下の画面が表示されれば、インストールは完了です。[閉じる]を押下してください。

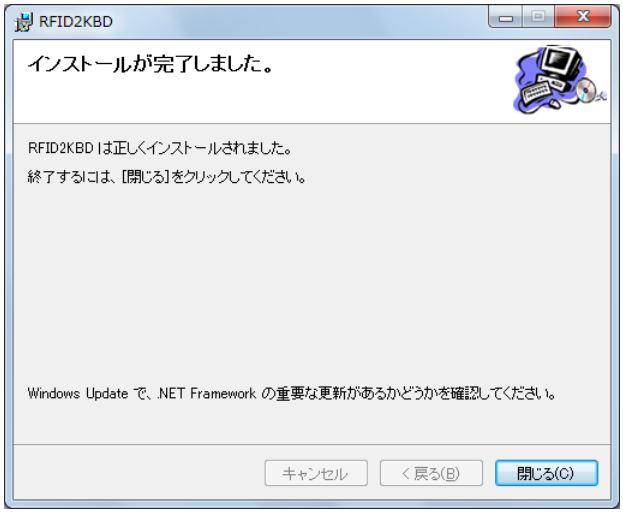

図 2-7

3. RFID2KBD の使用方法

3.1. 起動

[スタート]-[すべてのプログラム]-[Sobal Corporation]-[RFID2KBD]-[ソフトウエア]-[RFID2KBD]を選択し、本ソフトを起動します。

本ソフトを起動すると、タスクトレイにアイコンが表示されます。

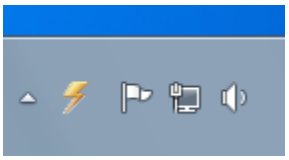

図 3-1

タスクトレイのアイコンを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。ポップアップメニューの各項目は、以下の通りです。

- Start： リーダ・ライタと PC を接続し、UHF 帯タグの検出を開始します。UHF 帯タグ検出中、この項目は「Stop」になります。[Setting]画面表示中、この項目は選択できません。
- Settings：接続されているリーダ・ライタのファミリとインターフェースや、UHF 帯タグ検出時の動作等を設定する[Settings]画面を開きます。UHF 帯タグ検出中、この項目は選択できません。
- About： 本ソフトのバージョン情報[About]画面を開きます。
- Exit： 本ソフトを終了します。

3.2. 設定を変更する

リーダ・ライタの接続先や、UHF 帯タグ検出時の動作等を設定します。

3.2.1.[Settings]画面の表示

(1) ポップアップメニュー[Settings]を選択します。
(2) [Settings]画面が表示されます。各項目について以下に示します。

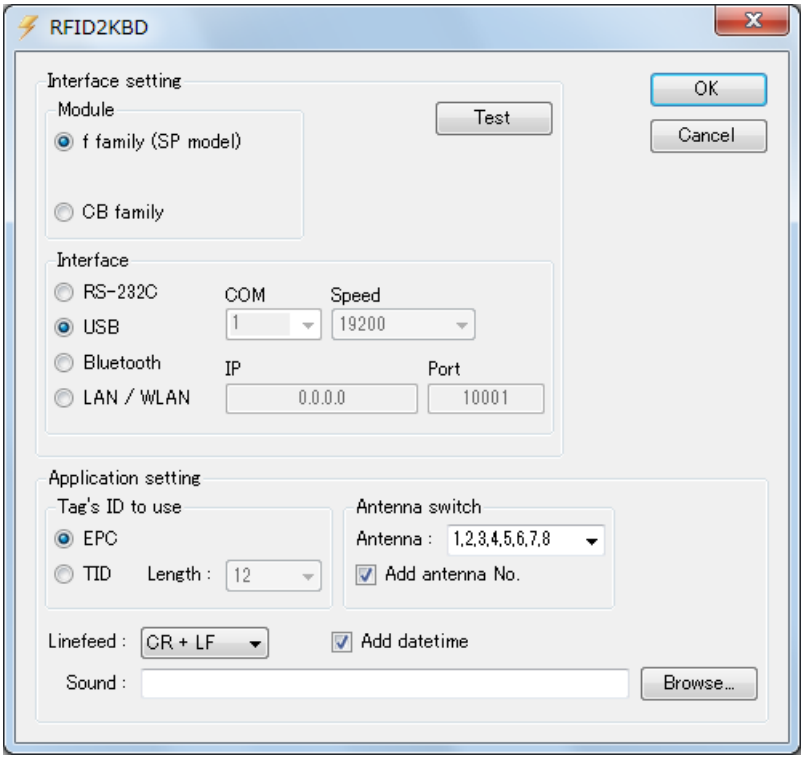

図 3-2

① 接続されているリーダ・ライタのファミリを選択します。リーダ・ライタのファミリにつきましては、「1.2.対応機器一覧」をご参照ください。
② 接続されているリーダ・ライタと PC とのインターフェースを選択、入力します。
③ リーダ・ライタとの接続を確認することができます。
④ 取得する UHF 帯タグ ID の種別を選択します。また、TID を選択した場合は、TID 長を選択します。
※ 1W モデルは、どちらを選択しても EPC のみとなります。
⑤ アンテナ切替器を利用する場合は、使用するアンテナ番号を選択します。また、UHF 帯タグ ID 入力時にアンテナ番号を挿入する場合は、[Add antenna No.]にチェックを入れます。
⑥ 検出した UHF 帯タグ ID 入力後に挿入する改行の有無を選択します。
⑦ チェックを入れることで、UHF 帯タグを検出した時刻を UHF 帯タグ ID 入力時に挿入します。
⑧ UHF 帯タグ検出時に鳴らす音声ファイル(WAVE 形式)を選択します。[Browse]ボタンを押下すると、[ファイルを開くダイアログ]が表示され、音声ファイルを選択することができます。
⑨ 設定を反映させ、[Settings]画面を閉じます。
⑩ 設定を破棄させ、[Settings]画面を閉じます。

3.2.2.[Settings]画面の操作

(1) [Interface setting]エリアから、リーダ・ライタを接続しているファミリ、インターフェースを選択、入力します。

※[Test]ボタンを押下すると、リーダ・ライタとの接続を確認することができます。

(2) [Application setting]エリアから、検出する UHF 帯タグ ID 種別、アンテナ切替、UHF 帯タグ ID 入力後の改行有無、UHF 帯タグ検出時の音声ファイルを選択します。

(3) [OK]ボタンを押下すると、設定が反映され、次回の本ソフト起動時も、これらの設定を保持します。

3.3. UHF 帯タグを検出し、ID をシミュレートする

(1) ポップアップメニュー[Start]を選択します。
(2) リーダ・ライタとの接続に成功し、UHF 帯タグの検出を開始すると、タスクトレイのアイコンがアニメーションにより変化します。
(3) テキストエディタ等、入力可能なウィンドウをアクティブにします。
(4) UHF 帯タグをかざします。
(5) UHF 帯タグを検出すると、入力可能なウィンドウに ID が入力されます。

※ 同じ ID を持つ UHF 帯タグが連続して入力されるのを防ぐため、前回検出した UHF 帯タグと同じ ID だった場合は、入力処理を行いません(アンテナ切替器使用時において、同じ ID が異なるアンテナ番号で検出された場合は、入力処理を行います)。
※ IME は直接入力モードにしてください。

3.4. バージョン情報を確認する

本ソフトのバージョン情報を確認します。

3.4.1.[About]画面の表示

(1) ポップアップメニュー[About]を選択します。
(2) [About]画面が表示されます。各項目について以下に示します。

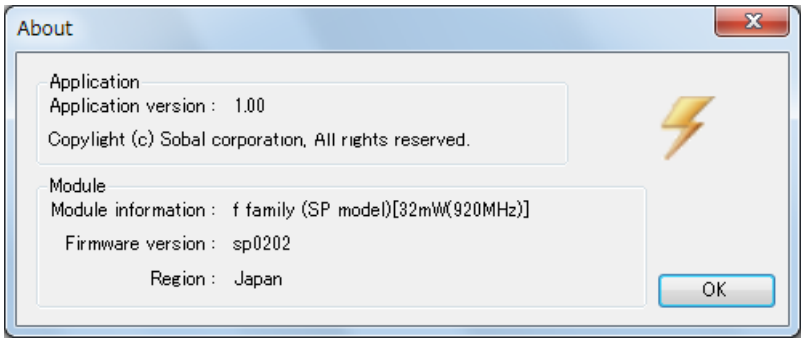

図 3-3

① アプリケーションのバージョン情報を表示します。
② リーダ・ライタの種別、及び機器バージョン情報を表示します。
※UHF 帯タグを検出中でない状態では、リーダ・ライタの種別、及び機器バージョン情報は表示されません。

3.5. 終了

(1) ポップアップメニュー[Exit]を選択します。

4. その他仕様

4.1. 自動開始モード

コマンドライン引数を加え起動すると、自動的に UHF 帯タグの検出を開始します。
リーダ・ライタとの接続等の設定値は、前回終了時の値を使用します。

[RFID2KBD -s]

Copyright(C) 2012 - 2013 Sobal Co. All Rights Reserved.